



【俵津野副峠】

医師偏在対策への提案

厚生労働省
新たな医療の在り方を踏まえた医師・
看護師等の働き方ビジョン検討会

平成29年2月6日
医療法人ゆうの森
理事長 永井康徳

医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック

- 愛媛県松山市で2000年開業16年目
- 常勤医 10人、非常勤医1人
- 職員100人
- 多職種チーム（MSW、介護士、PT/OT/ST、栄養士、CM、調理師）
- 松山市で在宅患者480人、西予市へき地診療所外来＋在宅患者60人
- 今年2月から松山市で有床診療所開設、外来本格開始



多職種チーム

医師	栄養士
看護師	MSW
ヘルパー	薬剤師
ケアマネージャー	鍼灸マッサージ師
PT、OT、ST	事務

多職種のチームで患者に向き合う

一人でできることは限られている



情報の共有と方針の統一がシステムの鍵

松山市とへき地診療所」で毎朝WEB会議を
多職種チームで行っています



大合併推進、周辺部に不満がくすぶる

加戸 県政考

上

西予市中心部のJR卯之町駅から車で30分弱。峠を越え、急カーブが続く坂道を海辺まで下りきった入り江に、同市明浜町俵津地区がある。約1300人が暮らす、ミカ

・5⁺。路線バスは1日数本しかない。女性は、運転免許は返納しており、「とても歩ける距離ではない」と不安がる。検討委が休止を答申した主な理由は、年間約8千万円の運営費不足と、市内の診療所数の「不均衡」だ。合併前の旧自治体のうち、市営診療所の数は旧野村町で1カ所、旧城川町3カ所、旧三瓶町2カ所。これに対し、旧明浜町には4カ所ある。

市は「答申の段階で、正式決定ではない」と説明するが、住民からは、「合併せず旧町のままであれば、即休止という議論にはならなかった」との声が聞かれる。

「財政力のない市町村は合併以外の選択肢はない」という持論のもと、加戸守行知事は県内の「平成の大合併」を強力に推し進めた。2003年3月に70あった県内の市町村は、05年8月までに20市町に再編された。市町村の減少率は71・4%で全国4位だ。

今春、市の診療所検討委員会が、旧明浜町内の4診療所の再編を市長に答申。旧町内で現状のまま継続されるのは、狩江地区のみとされた。俵津地区に住む80代の女性

市長選 国元氏が出馬表明

援体制の確立▽給食費の無料化▽福祉、教育分野での雇用の創出などを掲げた。



市の検討委の答申で内科を2011年度末で休止するとされた俵津診療所。西予市明浜町俵津

診療所再編

人口減加速

県によると、各自自治体が必要経費をどれだけ自前でまかなえるかを示す「財政力指数」の平均は、0・315から0・476へとアップ。合併が行政のスリム化と効率化に貢献したことを示す結果となった。西予市も、旧明浜町の合併直前の同指数は0・123で、単独で生き残るには危険な状況だったと説明す

は、今年9月末には3788人まで減少。中心部の重要な雇用の場だった役場も地域事務所になり、約80人いた職員数も四分の一に激減した。商店街の人通りも寂しい。元町議は、「(単独で存続した)松前町を見ると、切りつめれば町単独でもなんとかやれんことなかったんじゃないか」との思いも抱える。

松前町は、旧伊予市などとの合併協議が不調に終わり、単独で存続した。白石勝也町長は「合併自治体に認められている特例債などが使えず、財政はかなり厳しい」と明かすが、合併せずに良かった面もあるという。「住民が非常に危機感を持ってくれた。行政改革を理解してくれれば、連帯感がいるんな形で生まれてきたのは、町長としてうれしい」

大切に。

ER PLEASE

愛媛市況

(1日、キロあたり円)

高値	安値
1890	735
2520	735
3515	315
2625	2100
1890	1365

今治

野菜

10本	10本
10	10
10	10
10	10
10	10
10	10

八幡浜

野菜

高値	安値
193	23
1050	630
2625	705
10	10
10	10
10	10

しかけ、エサなど お安く販売しています!

最新釣情報

メバル・ホゴ・タイ

5年前、市町村合併の余波で 国保診療所が閉鎖の危機となる

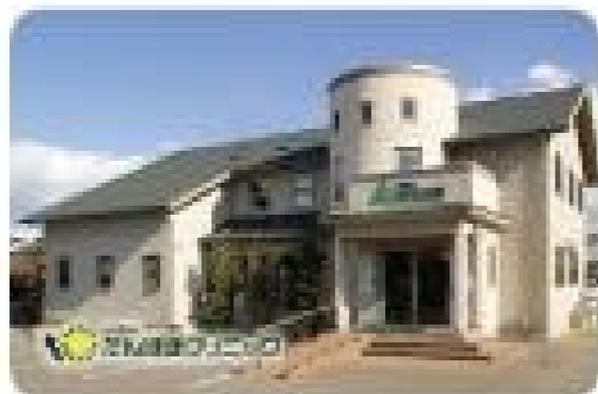


引き受ける前の俵津地区の現状

- ①地域住民1,200人
- ②高齢化率43%、毎年約60人の人口減少
- ③在宅医療ゼロ
- ④在宅サービス、施設サービスはすべて地域外
- ⑤自宅看取り率ゼロ
- ⑥地域に一つしかない診療所は年間3,000万円の赤字で閉鎖が決定

都市型在宅医療専門クリニック

たんぽぽクリニック



常勤医9人体制での
循環型地域医療を
行っています

松山市から約80km
高速使い1時間半

僻地診療所

たんぽぽ俵津診療所（西予市）



医師交代制の循環型地域医療

担当医師一覧

12月担当医師

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		宇都宮	濱崎	永井	家木	永井
6	7	8	9	10	11	12
休	佐野	宇都宮	濱崎	永井	家木	家木
13	14	15	16	17	18	19
休	佐野	宇都宮	濱崎	永井	家木	太田
20	21	22	23	24	25	26
休	佐野	宇都宮	休	永井	家木	森実(整形)
27	28	29	30	31		
休	佐野 検査日	宇都宮	休	休		

11月担当医師

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
	宇都宮	休	濱崎	永井	家木	濱崎
8	9	10	11	12	13	14
休	佐野	宇都宮	濱崎	永井	家木	家木
15	16	17	18	19	20	21
休	佐野	宇都宮	濱崎	永井	家木	濱崎
22	23	24	25	26	27	28
休	休	宇都宮	濱崎	永井	家木	森実(整形)
29	30					
休	佐野 検査日					

へき地勤務を交代するよう言うと、
イヤだという

たんぽぽクリニックの^{ドクター}Dr. 紹介

現在、たんぽぽクリニックには10名の常勤医と1名の非常勤医が在籍。
松山市と西予市明浜町俵津地区の2か所で、外来診療との24時間体制の在宅医療を行っています。



Introduction of our doctors

01
理事長
 たんぽぽ俵津診療所・院長
 内科 Yasunori Nagai
永井 康徳
 障害や病気を持った方々ができる限り同じ立場で、どうすればより良い環境でより良い療養ができるのか、共に考えていくことを目指したいと思います。
 <趣味> 瀬戸内海の海で船釣りをすること 

02
たんぽぽクリニック院長
 緩和ケア/内科
 Hirofumi Yano
矢野 博文
 もし自宅で療養ができれば…。これは誰も考えることではないでしょうか?しかし、現状ではなかなかその当然の事ができません。この当然の事を当然の事とする。これが、たんぽぽクリニックを通しての私の夢です。
 <趣味> 釣り 

03
消化器/内科
 Masahiro Sano
佐野 正浩
 病気の数よりも、利用者さまが刻んできた生活史のエピソードを、共に数えていける支援者になりたいと思います。
 <趣味> 車のハンドルや机や床などを打楽器にして、ビートを感ずるのが好きです。 

04
内科
 Satoshi Ieki
家木 聡
 患者さまから学ばせていただいたことを患者さまに還元し、質の高い医療を提供できるように努力していきたいと思っています。
 <趣味> ガーデニング 

05
内科/認知症
 Keizo Hamasaki
濱崎 圭三
 満足度の高い在宅医療を提供するために、いくつかの選択肢を用意し、それぞれのメリット、デメリットをわかりやすく説明した上で、患者さま本人、ご家族共に満足いく方向性を示し、実践できるようにしていきたいと思っています。
 <趣味> ロードバイク、鉄道旅行(乗り鉄) 

06
内科
 Yuji Utsunomiya
宇都宮 裕士
 病気だけを診る一方通行の医療ではなく、患者さま、ご家族のお気持ちを十分に聴かせていただき、生活の場で安心して療養いただけるような医療を心掛けていきたいと思っています。
 <趣味> 山歩き、写真撮影
 休日には石鎚山系を歩いています。 

07
家庭医
 (小児から高齢者まで幅広く診ます)
 Atsushi Ota
太田 敦
 できれば最期は長年暮らした家で迎えたいと考えている人や、そのご家族に、安心してご自宅で過ごしていただけるようなお手伝いをしたいと思っています。
 <趣味> 安くておいしいものを探して食べ歩くこと・サッカー観戦 

08
内科/泌尿器科
 Yoshiharu Siroki
白木 良治
 私は在宅医療を行う上で医療者の「人間力」も大切だと考えています。患者さまやご家族との関わりや、日々の業務を通して「人間力」を、少しでも高められればと思っています。
 <趣味> 食には結構こだわります。

09
内科/呼吸器
 Shunsuke Imori
飯森 俊介
 ご自宅で、人生の最後を迎える選択をした患者さまやご家族を、サポートします。在宅医療を選んで良かったと思ってもらえるような仕事をしていきたいです。
 <趣味> 愛媛マラソン完走を目指して練習中です。運動や仕事後の一杯に癒されます。

10
内科/脳神経外科
 Mari Nakagawa
中川 真里
 理想と現実がまならないなかで、どうすれば患者さまやご家族の方々の想いに少しでも寄り添うことができるのか…。人生のテーマとして一生懸命取り組んでいきたいと思っています。
 <趣味> 読書、浅田真央ちゃんの応援 

11
内科/緩和ケア
 Tomoko Nakagawa
中川 知子
 患者さま本人やご家族のお気持ちをよく聞いて、1人1人に合った医療を提供していきたいです。
 <趣味> 散歩 読書 

現在、たんぽぽクリニックには10名の常勤医と1名の非常勤医が在籍。

俵津プロジェクトの方法と結果



住民1,200人、年間赤字
3,000万円で廃止が決まった
僻地診療所の再生

24時間対応で積極的
な在宅医療を広域的
に展開

在宅医療の充実
自宅での看取りの増加
医療費の減少



僻地診療所



在宅医療



たんぽぽ俵津診療所

経営の成立
開業4ヶ月目で黒字化



医療者の疲弊の解決



都市部の診療所



たんぽぽクリニック

循環型地域医療
(複数医師の交代制で医療従事者の
疲弊の解決、教育研修機能の充実)

調剤薬局の併設
(院外処方による経営改善と
薬担当のNSの活用)

調剤薬局



へき地でも調剤薬局を開設



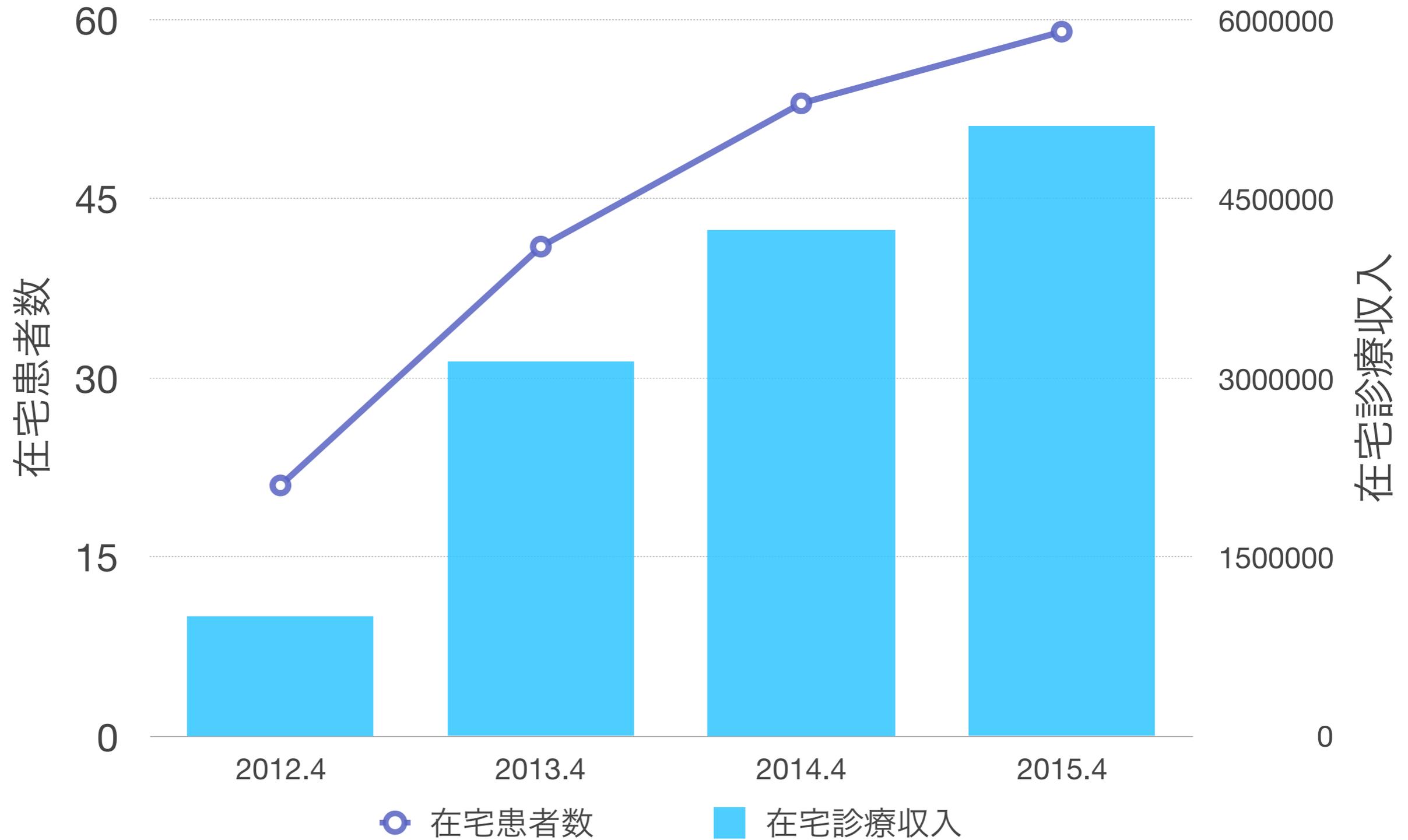
住み慣れた場所で安心して暮らし 続けることの出来る地域の創出



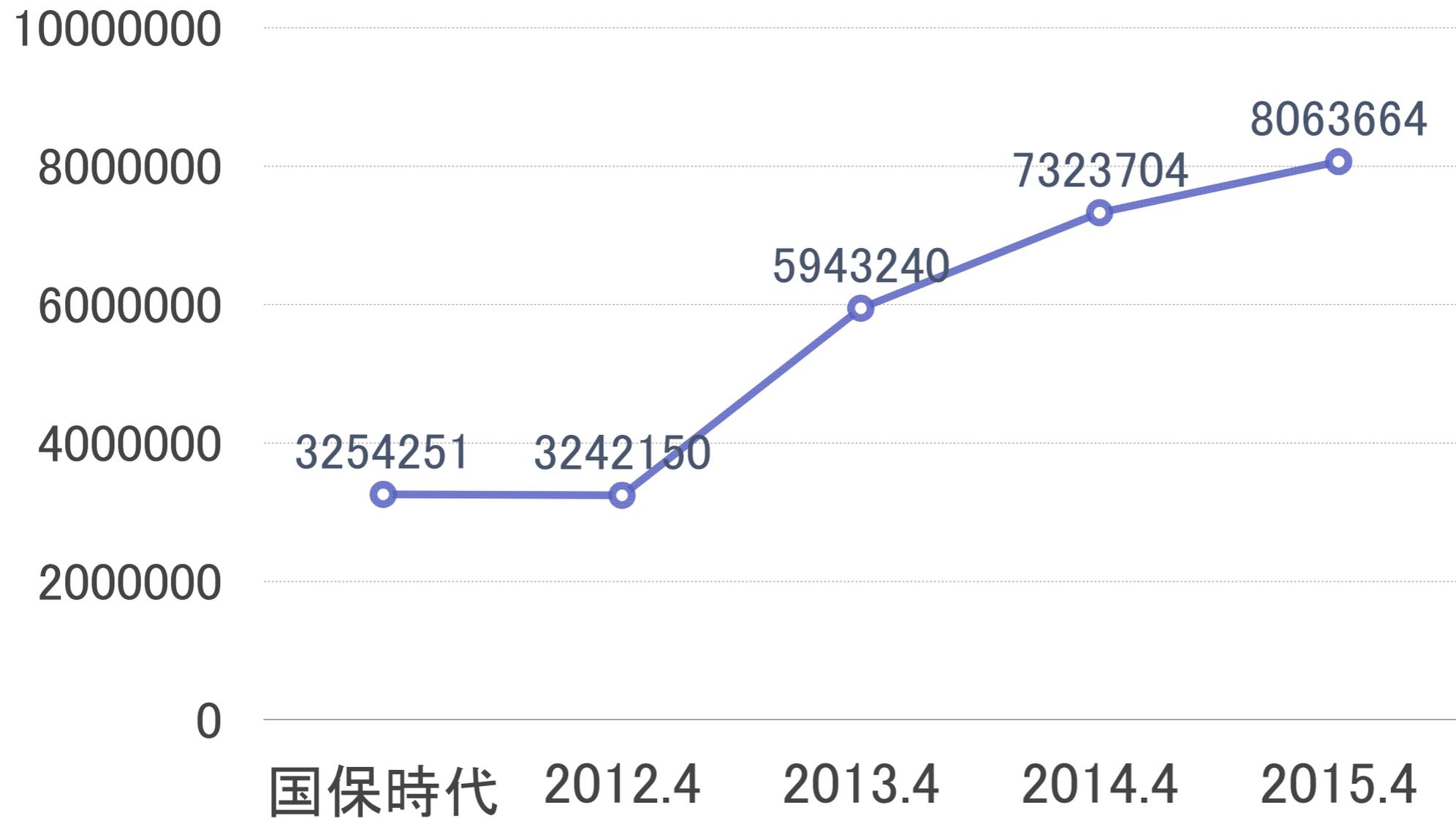
高齢化した地域のニーズに応える
医療を提供すれば、
患者は増え、経営も成り立つ



たんぽぽ俵津診療所在宅医療の推移



たんぽぽ俵津診療所収入の推移（在宅＋外来）



医師確保困難の打開策

- 都市部の医師によるグループ運営と云う形
- 24時間365日体制で運営されるへき地診療所
- 赤ひげ医者が自分の生活や人生を犠牲にして行うへき地医療ではなく、疲弊しない形でシステムで行うへき地医療（曜日ごとの医師交代制）
- 疲弊しないシステムでへき地医療を行えば医師もやりがいを持って医療を行える
- 都市部の医療機関とWEB会議で情報の共有と方針の統一を図り、医療レベルを維持する

過疎地域における医療と介護を 中心とした地域作り、まち作りにより 限界集落の阻止



日本サービス大賞地方創生大臣賞



日本
サービス
大賞
NIHON
SERVICE
AWARD



研修医達は在宅医療に驚き、 へき地医療に魅力を感じる



研修医の当院に来るまでの

在宅医療のイメージは

おじいちゃんの先生が

よぼよぼやっている印象

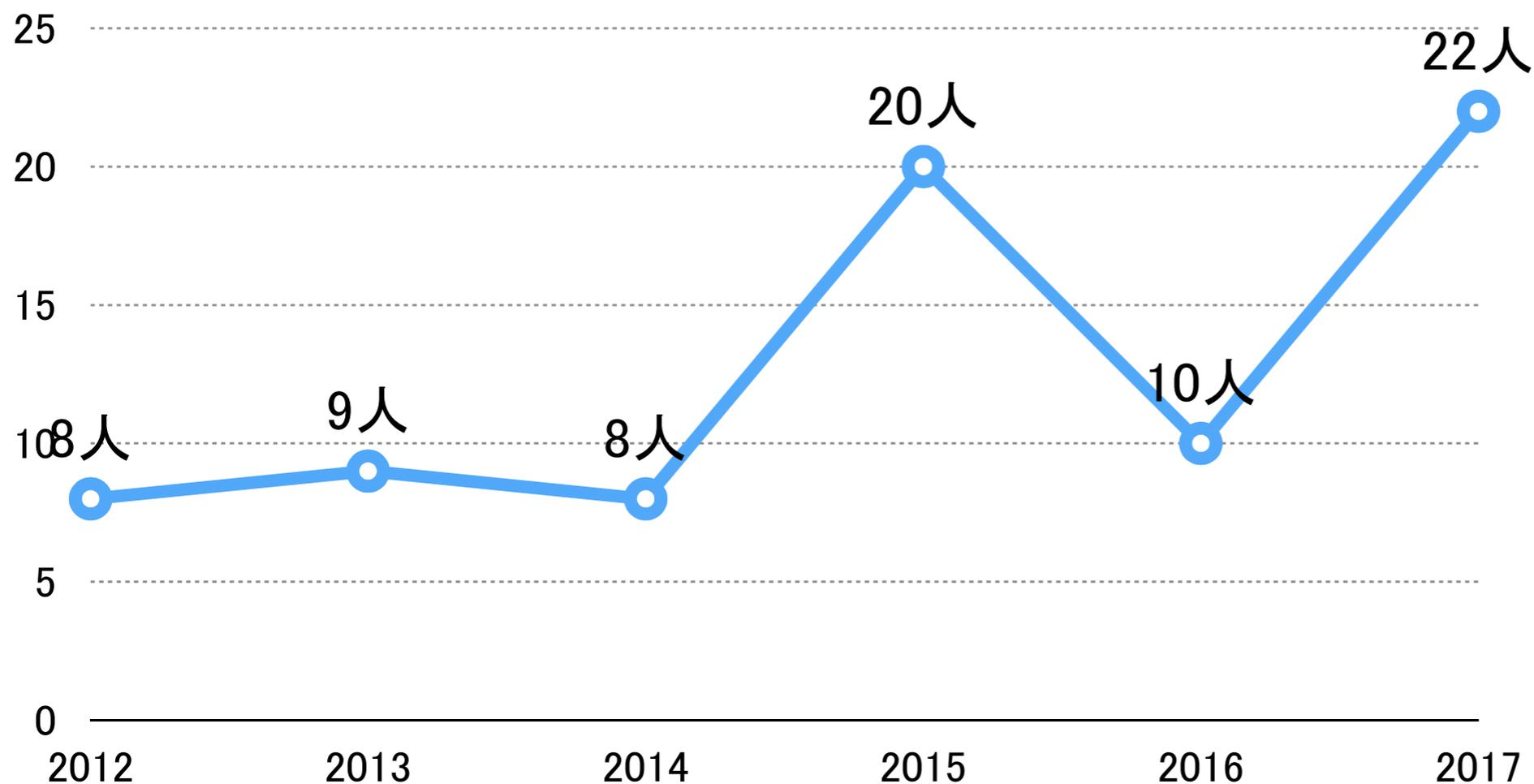
当院で研修した

在宅医療のイメージは

多職種で連携した

システムチックな最新の医療

たんぽぽクリニックでの研修医 (2年目地域研修)



東京大学
慶応大学
帝京大学
愛媛大学
近畿大学
埼玉医科大学



病気だけでなく、

人や家族、生活、労働、

生き方に向き合う医療

が求められている



地域医療の楽しさを医療系学生に体験してもらう

地域医療塾 毎年8月に開催



疲弊しないシステムでへき地医療を行えば
医師もやりがいを持って医療を行える

ゲネプロの活動紹介

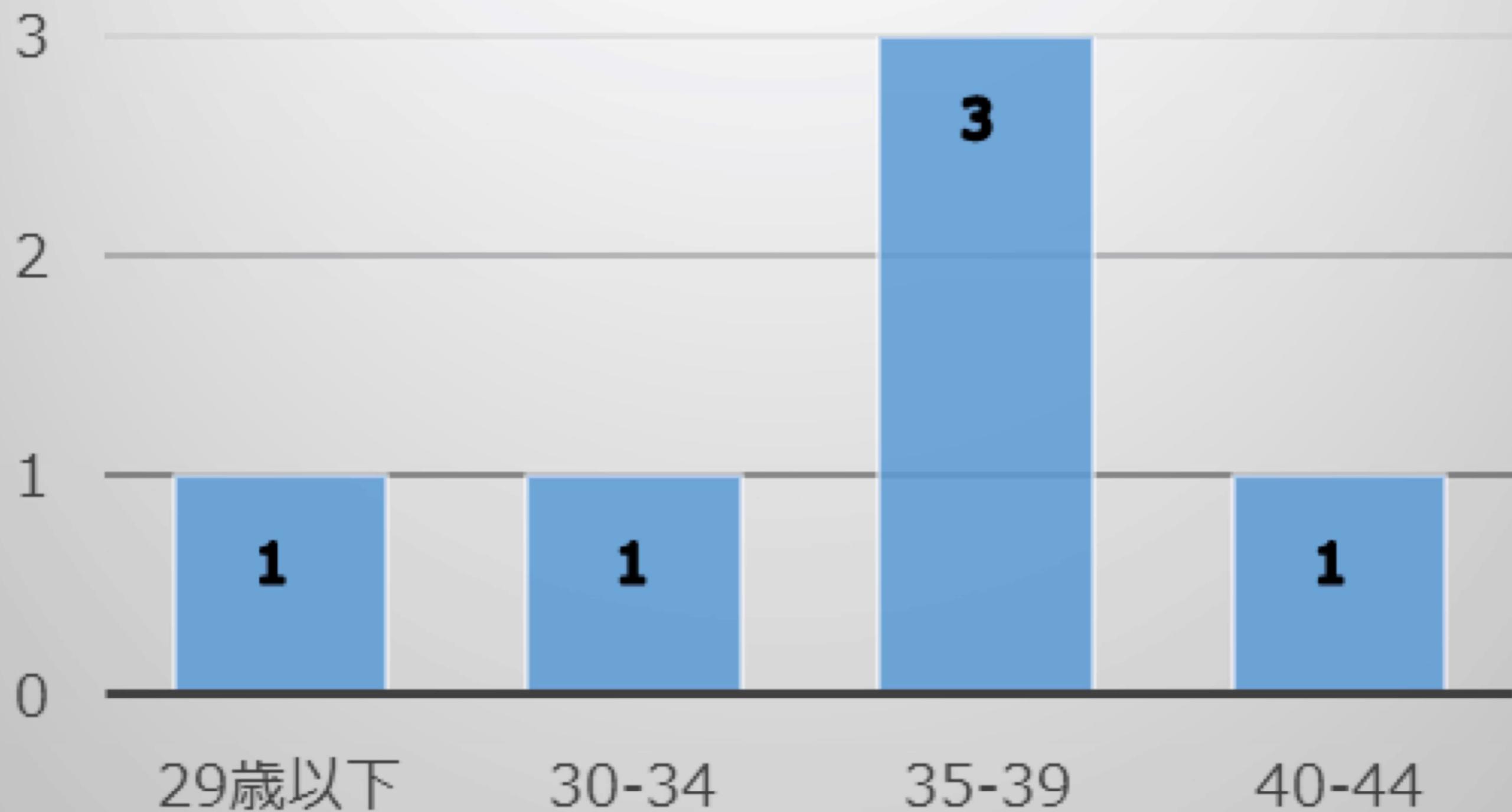
医師偏在の解消に向けて

ゲネプロ代表 齋藤 学

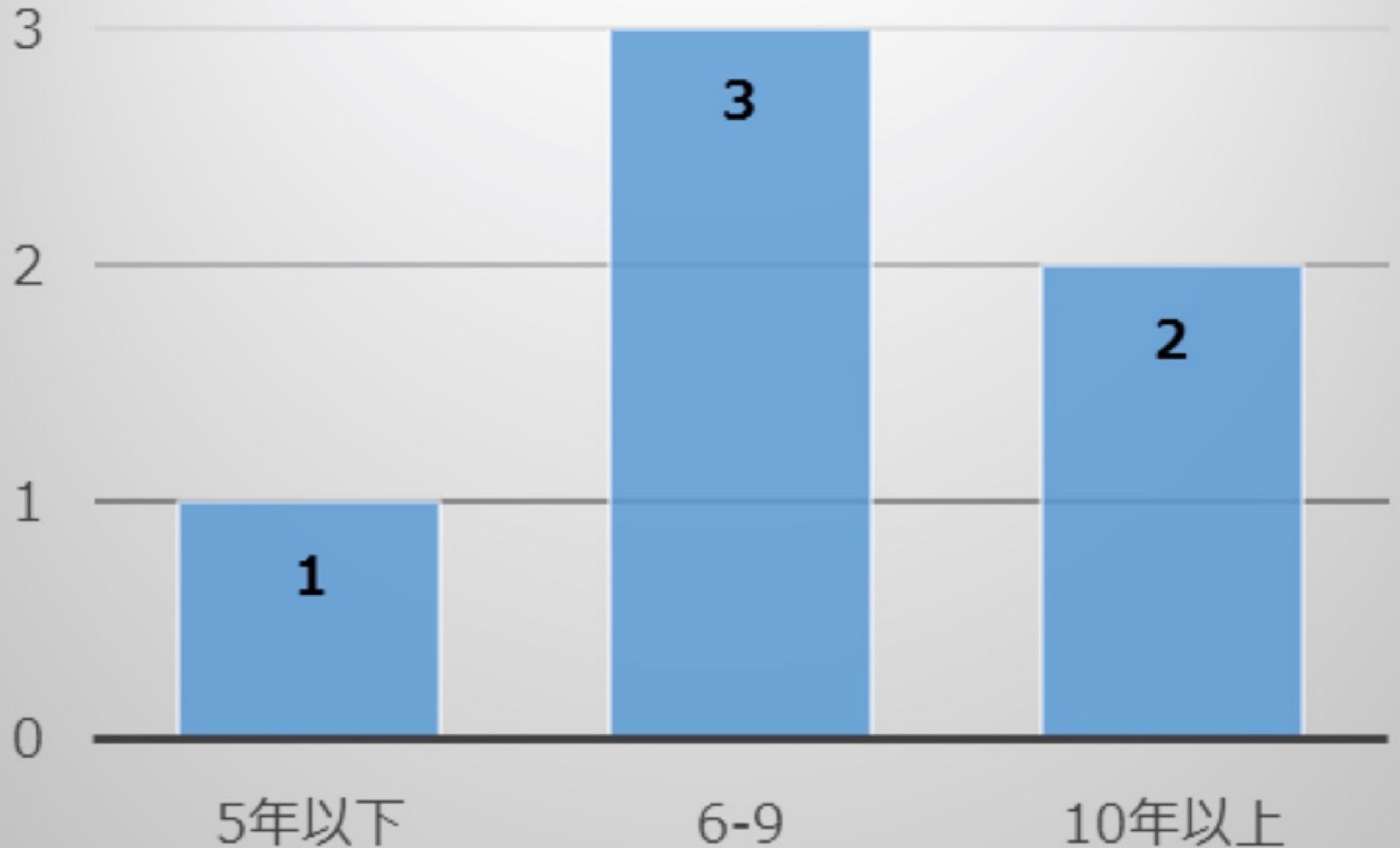
【ビジョン】

1. 離島へき地で闘える医師になる
2. 離島へき地で闘える医師を育てる
3. 離島へき地で闘える医師を派遣する

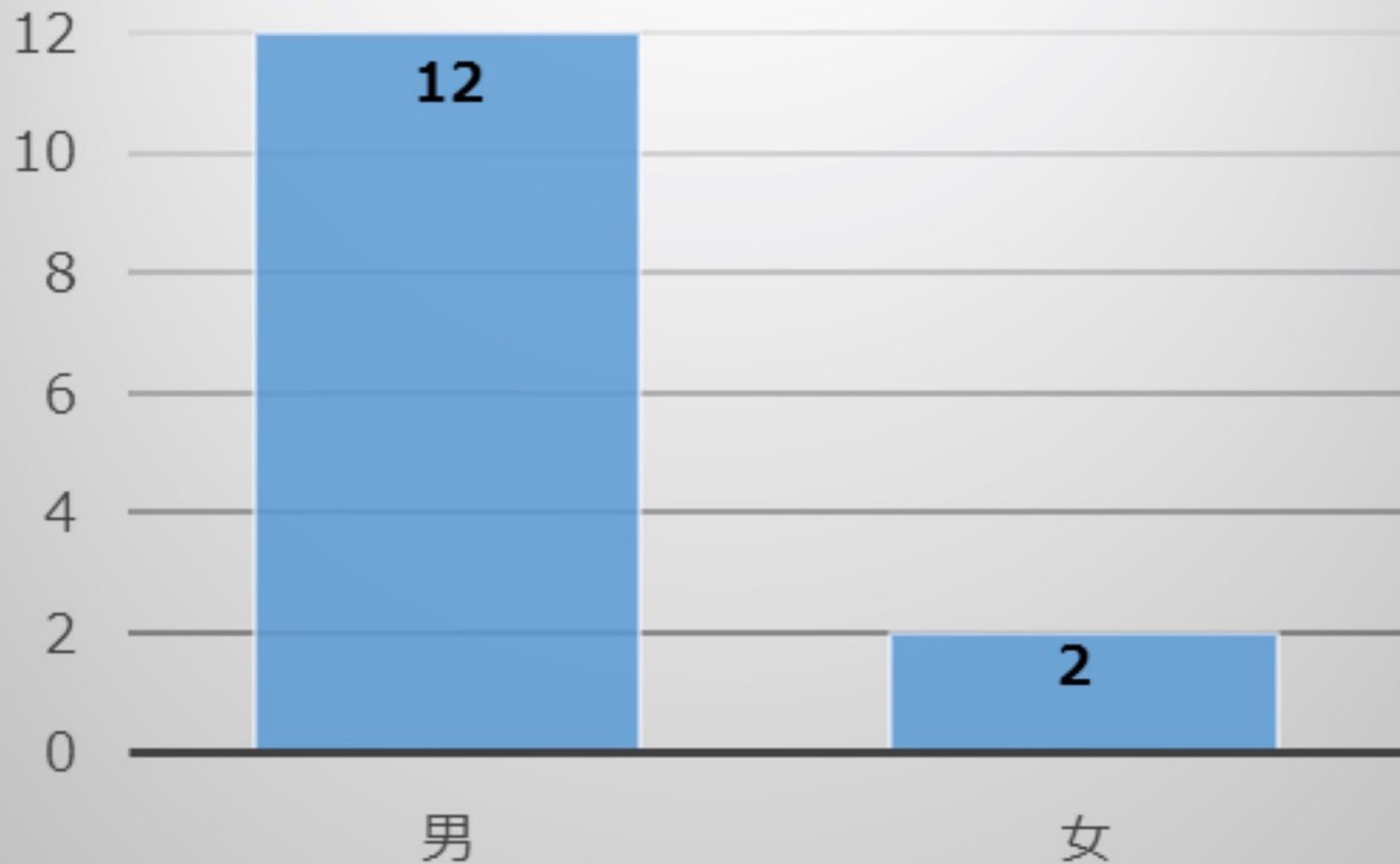
1期生年齡 (35.7歲)



1期生卒後年数 (7.8年)



2期生男女比





医師派遣・看護師派遣は認められないか？

医師や看護師が自由に
地域を動けるようにする



多様な働き方を認める

グループ診療の促進

複数での管理者を認め、診療所を
チームで管理することを認める



権限委譲と遠隔医療の推進

医師の医師不足地域への強制配置は
医師にとっても住民にとっても不幸

教育研修で医療者の自信を生み出し、
やりがいやモチベーションを引き出す

疲弊しない職場環境を作れば、
医療者は患者本位の優しい気持ち
発揮するようになる

働きたい場所と必要とする地域を マッチング

へき地派遣支援センター

医師のやりがいをサポートする3つの機能

①へき地勤務を可能にする
教育研修プログラム

②疲弊しないシステム

③働く場所のマッチングシステム



ご静聴ありがとうございました！

へき地医療 安心届ける

収入約束・技量磨き支援 医師を確保

離島やへき地で働く医師を育て、医師不足の解消を目指す試みが始まっている。都会から離れても知識や技量を高める機会を確保し、安定した収入を約束。赴任期間も区切る。福岡の救急医が豪州の仕組みを参考に研修プログラムをつくり、4月に1期生の6人が離島へ赴任する。



齋藤学医師

離島やへき地には一般的に、大学の医局や特定病院が若手を中心に「派遣」しているが、敬遠されがち。幅広い知識や経験が必要なおえ、交代が少ないので研修参加が制限されやすいことなどが背景にある。ただ、条件が整えば赴任をいとわぬ医師もいる。

福岡の医師 新プログラム

新たなプログラムを作ったのは齋藤学医師(42)。順天堂大を卒業後、救急医や総合診療医として鹿児島県の徳之島などで働いた経験がある。3年前に合同会社



産婦人科医の退職で昨夏から1人態勢になった種子島産婦人科医院＝鹿児島県西之表市、神元敦司撮影

「ゲネプロ」を福岡県宗像市で設立。離島やへき地でも各科で診察できる医師が多い豪州の教育プログラムなどを参考にした。

参加医師は1年間、ゲネプロと契約を結んだ離島やへき地の総合病院など「研修病院」で働き、原則的に産科や救急科、内科、外科などを経験。インターネット電話を使って豪州の医師に診療指導も受けられる。「研修病院」は医師に給与を支給し、教育プログラムを提供するゲネプロにも医師の年収の2〜3割を払う。派遣医師はゲネプロが面談を重ねて決めるので、病院は時間と労力をかけずに医師を確保できる。医師

にとっては、期限付きで離島・へき地医療を経験でき、そこで自己研鑽できる。

齋藤さんは「日本では離島やへき地に飛び込みたいと思う医師の道しるべがなく、このままでは、なり手が少なくなる」と話す。

4月に赴任する1期生は29歳から41歳の6人。赴任

産科医不足が深刻

離島やへき地で深刻なのが、産婦人科医の確保だ。

離島がある各自治体などへの取材では、昨年11月時点で島内でお産ができるのは16島。できなければ、本土のホテルで暮らすなどの対応を妊婦が迫られる。

16島のうち7島では産婦人科の常勤医が1人だけだ。昨年4月以降でも種子島(鹿児島県)と中通島(長崎県)で常勤医が2人から1人に減った。種子島の3市町で運営する種子島産婦人科医院では、体力面を理由に68歳の医師が昨年7月で退職して30代の医師1人になり、病院が同10月

先は長崎県の中通島(五島列島)と鹿児島県の徳之島の病院だ。島根県立中央病院(同県出雲市)救命救急医の石飛奈津子さん(37)もその一人。夫と2人の子どもと離れ、徳之島で勤務する。離島やへき地医療を維持するには、1年や数カ月単位で交代できる仕組みが必要だと石飛さんは考えている。「離島やへき地でも患者一人ひとりの生活に関わっていきたい」

病院側は救急搬送時を懸念する。医師が妊婦とへりに乗るなどして島から出た際、島内の別の妊婦に不測の事態が起こる場合だ。長崎医療センター(長崎県大村市)客員研究員で産婦人科の山口純子医師(37)の試算では、2015年からの20年間で人口が半減すると見込まれる長崎・対馬で、お産の件数は234から78と3分の1に減るとみられ「病院の経営面からお産態勢が維持できなくなる」と危機感を抱く。

(神元敦司)